

劉彩品支援斗争の飛躍へと斗い抜け！

9月24日、午前10時50分、劉彩品さんの、「絶縁者の文中にもある如く、中国人としてどうしても球へざるを得ないという白らの意志に基づいて『絶縁者』を書いた」という内容の「言明書」と同時文壇に、品川入管事務所で「中国籍・三年」のバザが木村氏に手渡された。

劉さんの在留許可の獲得は確かに我々の直接の目標であり、運動の結果点でもあった。しかし我々にとつて何か終つたのだろうか、否である。

何故法務省入管局はかくも意いんで彼女の帰郷を、処理せんとしたのかを我々は厳しくとらえかねておぼろめ。彼らの意図は、明確に入管法を今秋新国会に再上程する為の彼らの側の体制固めと、またこの劉さんの運動が在日朝鮮人の「韓国籍」から「朝鮮籍」への書き換え運動に波及するのを恐れたことだった。彼らにとつて、我々入管体制崩壊斗争を担う者には具体的課題（劉彩品防衛）を与えることは、危険なことであり、せし改竄さんを「個別の」「特殊な」例として、「早期に以て処する」ことが必要であった。我々は在留許可獲得と、此の成果と認めつつも、彼らの取捨の意図を粉砕していかなければならぬ。

仕向中国人としての思想・感情の自由という劉さんの主張が彼女を、政治家とし、そして今回の運動が、終始劉さんの生命の危険を賭けずにはいないことのために我々は何を見過ごすべきか。そこには明らかに日「韓」台という反革命軍事・経済体制の下で進行する在日の日台関係と、それと相互補完的に存在する入管体制に基づく在日アジア人・中国人、朝鮮人への抑圧があるのだ。そのことはまた劉さん自身の「絶縁者」のなかでも明確に語られている。彼女はその「絶縁者」のなかで「もう一度言おう。自らに向い返して、私はあなたたち国民党政府に反対しなればならぬ。なぜならあなたたちは中国主義の走狗であり、中国人民の敵であるから」と述べている。我々はこの言葉のなかで、人民と権力の関係において反撃斗争を深意した彼女の意志を眺めるとし、又この彼女の反撃斗争と具体的に如何なる戦術をもって進めしうるのであるかを模索する。在留許可獲得は一つのステップにすぎず、我々はこれを通じて、更に劉さんの政治活動の自由を現実的に闘いとるべく彼女を防衛し、彼女の反撃斗争と進撃すべく斗い抜けなければならぬ。

さらにはまた我々は入管体制崩壊斗争の現在の課題たる入管法再上程阻止、日「韓」法的地位協定粉砕へ向け我々の視念の確立と斗争の模索を怠らねばならぬ。現行「入管令」が朝鮮戦争過程の一九五一年に制定されたこと、一九六五年日本経済の危機と日「韓」条約の成立、そして今またアジアの混迷化しての旧態の復讐と「入管法」再上程があることを見れば、我々は日帝の後継者との対決のなかでこの入管体制崩壊を断つていかなければならぬ。若者斗の、在日朝鮮人の、劉さんの。皆々々に答えるとは、観念のなかで抑圧民族たる自己の責任を向うことによつてではなく、実践によつてのみ、階級斗争の、入管斗争の推進に、よつてのみ答を得るのである。そして同時にまた我々は自らの運動体内部に、排外主義に抗するイデオロギーを構築せねばならぬ。

我々に現在向わねている課題として、劉さん支援の斗争を、如何に在日朝鮮人の国籍書き換え運動へと質的展開をせし得るのであるかであり、在日中国人・朝鮮人の斗いへと普遍化し得るのかである。我々は「韓国籍」への「朝鮮籍」への書き換えを支持しつつ、日「韓」法的地位協定粉砕と林三選阻止へ向け、彼らとの連帯を求めて自らを飛躍させん！

劉彩品支援斗争の飛躍を勝ちとれ！

劉彩品の絶縁者断固支持！

劉さんの反撃斗争を支持！

入管体制粉砕！

日韓法的地位協定粉砕！

日韓台反革命体制粉砕！

在日朝鮮人への書き換え運動を支持！

在日朝鮮人への書き換え運動を支持！

在日朝鮮人への書き換え運動を支持！

斗い抜け！